

高い専門性と人を育てるまなざし 現場型技術で農村開発分野に貢献

会社の長所は？

1998年の設立以来、現場主義に徹してきた農村開発のグローバルなグループであるアールディーアイ。農業開発分野の技術協力プロジェクト、調査、JICA筑波国際センターで実施される研修コースの実施・運営が、事業の3つの柱だ。設立当初はアフリカ地域が中心だったが、最近はアジアや中南米にフィールドを拡大している。社員の多くは青年海外協力隊の経験者で、およそ半数が海外の大学院で修士号を取得している。こうした現場経験に裏付けられた社員の高い専門性に加え、同社の長所として挙げられるのは、若手を育てようという雰囲気とサポート体制の充実。小規模だからこそ小回りが利き、休職して大学院で研究したり、JICA専門家として長期にわたって途上国に駐在したりすることがある。

同社では、地域開発のノウハウ、途上国に関する知見などの発信にも積極的に取り組んでいる。例えば、社外の援助関係者や専門家を交えた勉強会を定期的に開催しているほか、一般向けに途上国の社会・文化や習慣などをホームページ上で紹介している。



求めている人材は？

国際協力業界では、経験を積んだベテラン技術者が定年などで退職していく中、若手技術者の育成・確保が課題となっている。アールディーアイは、大学卒業以上で応募が可能だが、特に農村開発に関する専門分野を持ち、かつ5年以上の業務経験がある人材を募集している。青年海外協力隊などで途上国経験がある人材を歓迎。これに加えて、語学力や健康を維持する能力、開発協力を携わる強い意志と根気を持った人材を求めている。

国際協力機構（JICA）のジュニア専門員（フィリピン駐在）や大学院を経て、今後も海外の現場で仕事を続けたいと考えていたところ、知人に紹介されて33歳の時にアールディーアイに入社した。「入社したばかりの頃は右も左も分かりませんでした。現場経験が豊富で、さまざまなスキルを持った専門家が周りに多くいたことが支えになりました」と大竹さんは振り返る。

開発部

大竹 雅洋さん(43歳)

Masahiro Otake



国際協力業界では、経験を積んだベテラン技術者が定年などで退職していく中、若手技術者の育成・確保が課題となっている。アールディーアイは、大学卒業以上で応募が可能だが、特に農村開発に関する専門分野を持ち、かつ5年以上の業務経験がある人材を募集している。青年海外協力隊などで途上国経験がある人材を歓迎。これに加えて、語学力や健康を維持する能力、開発協力を携わる強い意志と根気を持った人材を求めている。

ホームページで通年応募を受け付けているほか、国際協力キャリア総合情報サイト「PAR TNER」で年2回一般公募しており、問い合わせがあれば会社説明を随時行う。

company data

有限会社アールディーアイ
Rural Development Institute Ltd.
〒160-0006 東京都新宿区舟町12 ミルポレー四谷2F
設立：1998年12月 資本金：565万円 従業員数：23人
代表者：代表取締役 仁部輝彦
事業分野：農村開発分野における技術協力プロジェクト、調査、研修コースの実施・運営など



recruitment

新卒採用：なし 中途採用：あり
募集職種：コンサルタント業務（農村開発、社会開発）、国内での技術研修指導
募集人数：若干名
TEL：03-5363-0526 FAX：03-5363-0536
E-mail：kaihat@jprdi.com
URL：http://www.jprdi.com

2009年に休職して名古屋大学大学院・博士課程に進学し、カンボジアの精米業について論文を執筆した。

現在はモザンビーク最大のかんがい地シヨクエ地区の農業開発プロジェクトに従事し、じかまき稲作の普及、農民の組織化に取り組んでいる。今後はプロジェクトマネジャーとして、事前調査からプロジェクトの企画・実施まで一貫して手掛けたと意気込む。

